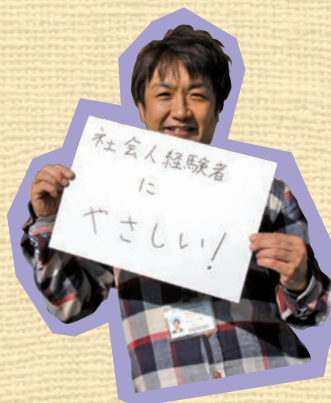


社医学 ひろば

創刊号
2019.No.1



学校法人 日本リハビリテーション学舎

専門学校 社会医学技術学院

新たな船出に際し

学校法人 日本リハビリテーション学舎 理事長 宮武 剛



新たな発展を目指し、社会医学技術学院は、この春から学校法人「日本リハビリテーション^{がくしゃ}学舎」運営の専門学校に組織を切り替えました。

本校は、1973（昭和48）年、働きながら学べる我が国初の夜間部の理学療法士養成校として創設されました。1977年には一般財団法人「日本リハビリテーション振興会」を母体として設け、昼間部の理学療法学科、夜間部の作業療法学科を加えた体制で、3,500人余の理学療法士、作業療法士を社会に送り出しました。

財団法人による独自の運営には長所もありましたが、学校法人である方が社会的な評価は高く、経営基盤はより強固で、行政の支援も受けやすくなります。このため、学校法人化へ向け唯一の障壁であった借地の学校敷地を購入し、東京都に学校法人化を申請・認可を得て念願の組織変革が実現しました。

新たな学校法人を「日本リハビリテーション^{がくしゃ}学舎」と名付けたのは、同じ志を持つ学生・教職員・同窓生らの親密な「まなびや」でありたいとの願いからです。学校名は、なじみ深く、広く知られた「社会医学技術学院」、通称「社医学」の名称のままです。

この広報誌『社医学ひろば』も、財団法人時代の広報誌『リハビリテーションひろば』を衣替えし、学生、実習先の先生方、卒業生、教職員らの集いの場として再出発します。読者として著者として、どうか自由に『ひろば』を活用してください。

社医学ひろば 創刊号 2019年 No.1

CONTENTS

社医学のあゆみ	3
卒業生インタビュー	6
教員紹介	10
サークル紹介	12
社医学周辺マップ	14

表紙について

本校の文化祭である「ふくろう祭」にて『社医学の印象』を撮影時に尋ねたものです。授業のこと、仲間のこと、教職員のこと、そして学生生活のこと、昼間部と夜間部の学生諸君がそれぞれの思いを表現してくれました。（編集委員 小島 肇）

社医学は 47年目の春を迎えます

1973年に開学した社会医学技術学院。これまで3,500名もの卒業生が巣立っていきました。今昔の画像を通して、一歩ずつではありますが、その進化をご覧いただければ幸いです。

▼…往時 ▼…現在



◀開校時の校舎はスポーツ会館

▼1973年に行われた第1回目の入学式



▲近隣の農工大で入学式を実施

校舎

設立当初は東京都新宿区百人町のスポーツ会館内。ジム、プール、サウナ等、スポーツ会館ならではの設備が、学生のレクリエーションに利用できたそうです。その後渋谷区幡ヶ谷に移転し、緑豊かな小金井市に拠を構えたのは1980年。

▼6階建てビルの幡ヶ谷校舎



▼第2回卒業式は1978年に実施



式典

夜間部から始まった本学院の初期は、入学者の多くが社会人でした。昼間部新設で高校卒業者の進学が増え、今ではさまざまな年代が目標に向かって学び、卒業式を迎えます。

▼近年増えている袴姿



▲移転当時の小金井校舎

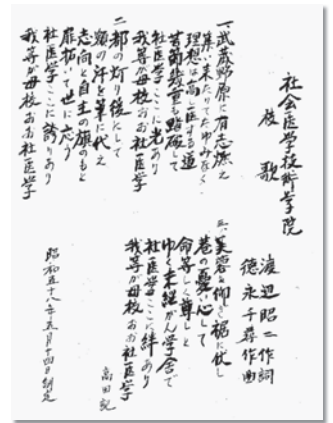


「リハビリテーションひろば」

リハビリに関する知識の普及啓蒙を目的に1977年発行。63号を最終号に、本誌へバトンタッチしました。

「作業療法学科卒業文集」

第1期生の卒業文集に寄せた下河辺征平先生（元学院長）からの「送ることは」。



社医学校歌

創立10周年を機に校歌がつけられました。希望や期待だけでなく、社医学のバックグラウンドも盛り込まれています。

1973

理学療法士養成施設（夜間部）として開設

運営母体の財団法人
リハビリテーション振興会法人化

理学療法学科（昼間部）開設

75

東京都渋谷区幡ヶ谷に移転

77

80

東京都小金井市に校舎移転
専門学校として認可、作業療法学科（夜間部）開設

83

◀食べる方もつるす方も真剣そのもの



◀おそろいのユニフォームで参戦

▼教員も一緒に参加



校章

学生公募でつくられた校章。「夜間部から始まった経緯」「桜の名所が多い小金井」がモチーフになっています。



▲8つのサークルが活動中
(写真はバレーボールサークル)

体育祭

かつての体育祭はパン食い競争や障害物競争などが人気を博していました。今は、フットサルや大綱引きといったプログラムが中心になっています。

レクリエーション

キャンプや海水浴などが盛んだった30年前。今はサークル活動や気の合った仲間との合宿などで絆を深めています。



▲子どもたちも参加。第2回ふくろう祭の様子



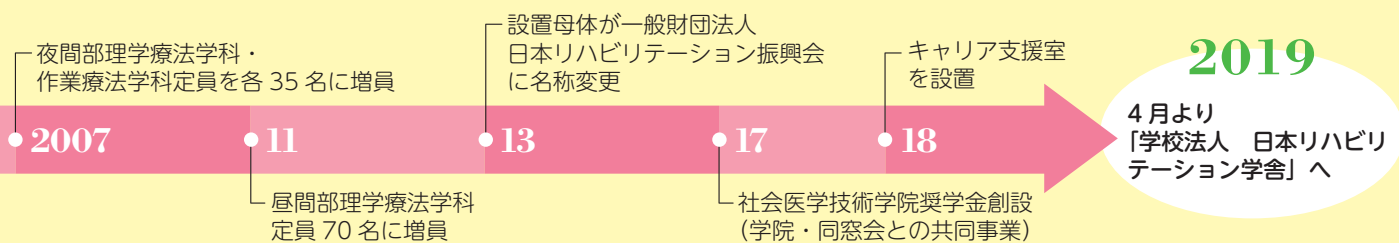
◀校庭での屋台



◀作業療法学科のイベント

ふくろう祭(文化祭)

学院が夜間部から発足したこと、ふくろうが学問の象徴であることが由来となって名づけられたふくろう祭。各学科の催しと活気のある屋台は地域の方々からも好評です。



授業

和気あいあいとした雰囲気での授業もあれば、黙々と取り組む授業もあり。昔も今も変わらないのが教員の熱さと、学生の真剣な眼差しです。



◀理学療法学科(左)、作業療法学科(上)の授業風景



▲今では懐かしい機器にて筋力測定中

社医学データ



- 在校生数(2018年7月30日現在)
 - 理学療法学科昼間部 206名
 - 理学療法学科夜間部 134名
 - 作業療法学科 99名
- 授業時間(2018年度)
 - 理学療法学科昼間部 2,955時間(うち臨床実習 900時間)
 - 理学療法学科夜間部 2,885時間(うち臨床実習 855時間)
 - 作業療法学科夜間部 3,110時間(うち臨床実習 1,215時間)

- 国家試験合格率(2017年度)
 - 理学療法学科昼間部 84.5%
 - 理学療法学科夜間部 84.8%
 - 作業療法学科夜間部 91.7%
- 就職状況(2017年度)
 - 求人数 1,874件(理学932、作業942)
 - 求人数 6,761人(理学3,301、作業3,460)
 - 希望就職率 100%

★★★
輝く
社
医
学
卒
業
生

社会人として輝く先輩たちに、
仕事や学生時代について伺いました。



工藤建太さん

Kenta Kudoh

埼玉西武ライオンズ

S&C (ストレングス&コンディショニング)

理学療法学科昼間部2003年3月卒業



基礎を学んだ先に何ができるのか 叩きこまれた療法士の本質

大学でスポーツ医学を学び、将来はスポーツの世界でトレーナーになることを考えていました。卒業後すぐに仕事は見当たらず、大学院へ進んだ後に、トレーナーの仕事は不安定であるし、何か資格を取った方がいいと思い、医療の本質とヒトの身体を総合的に学ぶために理学療法士を目指すことにしました。

社医学を選択した理由は、歴史と伝統があり教育体制が充実していること、「日本リハビリテーション振興会」という組織が運営していること、私立の中で学費が安かったことです。

私は入学時、26歳でしたが、同級生には年上の先輩から高卒の子までいて、非常に幅広くまたバランスが取れた年齢構成だったと思います。スポーツが好きな学生が多く、休み時間に身体を動かしたり、休日に有志で遊びに行ったりしたことを覚えています。

先生方からは「療法士は疾患を評価するのではなく、患者さんを一人の人間として評価することが大切である」と事ある毎に言われました。今思えば、教科書から基礎を学ぶことは基礎として当然であり、その上で何ができるのかということが療法士の仕事だというメッセージであったと感じます。

卒業後は総合川崎臨港病院、東京労災病院の2病院に、約13年間勤務しました。2017年に埼玉西武ライオン

ズと契約しましたが、この話は、実は年初に病院勤務は辞めて、高校生などを対象にフリーでトレーニングやコンディショニング指導をする準備をしていた矢先にいただきました。難しい挑戦とは思いましたが、タイミングも大切だと思い決断しました。

昨年まで2軍を担当し今年から1軍の担当になります。業務はランニングやウエイトトレーニングのメニュー立案・実行、トレーニングアドバイス、全体ウォーミングアップ・クールダウンの指導等がメインです。若手選手への人間教育も重要な仕事の1つです。

この世界に入ってから生活スタイルは大きく変わりました。しかし、仕事については変わらないところもあります。プロ野球選手への指導は病気を抱える患者さんへの指導とは異なる点が多いのですが、提供手段やゴールは異なっても、ゴールに至る過程で必要なことをアドバイスするという視点には変わりはないと思うからです。

学生の皆さんには、医療はさまざまな分野の中でも特殊であり狭い世界なので、幅広い視野を持つてほしいですね。異業種の方々と交流することで、多種多様な情報に触れることが大切です。私は大学時代から40歳になるまでクラブチームでアメフトをしていたおかげで、幸いにもさまざまな方と触れ合う機会があり、それが今でも宝物になっています。

星野由美子さん

Yumiko Hoshino

カラダノチカラ代表

理学療法学科昼間部 1998年3月卒業



人と違うことを受け入れる環境で やりたいことに突き進む勇気を持つ

高校生のとき、親から「将来は手に職をつけなさい」といわれ国家資格の分厚い本を渡されました。怪我をして部活動を辞めざるを得なかったことや身体の仕組みや身体を動かすことに興味があったので、本の中にあった理学療法士に目がとまり、社医学へ入学。クラスメートの半分は同年代で、もう半分は少し上の世代だったので、おにいさん、おねえさんたちがいる感じでした。

3年生の年明けには国家試験があるからと、「ひと足早い卒業旅行」を夏に決行し、ほぼクラス全員で行きました。楽しかった思い出の一つです。勉強面でも協力し合い、特に実技テストの前は練習し合って乗り切りました。

解剖学や生理学など最初はよく分からずひたすら覚えるだけでしたが、臨床に出てみると、その重要性を強く感じて後悔したものです。もう一度学び直したいと元担任に相談したところ、夜間の授業助手として参加し勉強し直すことができました。

卒業後は12年間、急性期の病院である東京警察病院に勤務しました。社医学入学当初はスポーツ分野のリハビリに興味がありましたが、実習で行った急性期の病院で患者様の回復力（カラダノチカラ！）のすごさを肌で感じ、この現場で患者様の持つ「力」をサポートしていきたいと思ったからです。

臨床で接すると、身体と気持ちは切り離せないと感じるようになりました。しかし、私のいた病院ではお一人の患者様とご一緒できるのは20分程度。難しさを痛感し、さらには患者様からのご希望もあり、「カラダノチカラ」と名付けたサロンを開くに至りました。ただ、理学療法士には開業権がありませんので、整体師資格を取っての開業です。

このサロンでは、肩こり、腰痛、産前産後のケア、難病の方など、身体のままさまざまな悩みを抱えていらっしゃる方々と約2時間、いろいろお話を伺いながらご一緒にします。今年中には法人化を目指し、支店を立ち上げる等、活動を広げていきたいと思います。また小さなときから身体の使い方、仕組みを体感してもらいたいのので、子供達の施設も手掛けたい。やりたいことが山ほどあるので開業したともいえます。「理学療法士」という一般的な概念から飛び出し、「理学療法士」だからできることをどんどん実現していきたいと思います。

社医学では「人と違っていい」ということを学び、後押ししていただきました。先生もクラスメートも個性的で、自主性を重んじてくれる校風でしたし、応援してくれる学校です。やりたいことに突き進む勇気を持てたのは、そのベースがあったからではないかと思います。



大久保孝彦さん

Takahiko Okubo

八王子保健生活協同組合
代表理事・専務理事

作業療法学科 1986年3月卒業

現場で悩む卒業生にとっても 社医学は「拠り所」であり続けてほしい

25歳のとき、医療ソーシャルワーカー（MSW）として社会人のスタートを切りました。作業療法士になるために社医学の門を叩いたのは、これまで医学領域について学ぶ機会がなく、リハビリテーションを勉強することでヘルピング・プロフェッション（対人援助の専門職）の幅が広げられないかという思いからです。さらに、作業療法士には精神科作業療法の分野があることもMSWとして役立つと思いました。勤務先でリハビリ職が慢性的に不足していたことも影響しています。

当時のクラスには、高校卒業すぐに入学してきた人から社会人まで多彩な面々が揃っていました。みな日中働いてきてから学校に来ているのに、授業は活気にあふれていましたね。目指す先が明快だったこともあるのでしょう。

4年次のときに「障害受容における一考察～セラピストによる障害の受容」と題する卒業レポートを書きました。援助される側と援助する側の相互性を説くのが狙い。稚拙な内容でしたが、「理解は偶然、誤解は当然」という言葉があるように、人と人との関係、理解すること、されることの難しさを今でも感じています。

社医学を卒業してからは、勤務先の意向でMSWとして勤務しながら事務系の業務を兼務していました。OT

としての臨床経験は、今思えば少しでしたね。現在は、理事長を補佐して法人業務を統括しています。

八王子保健生協（はちせい）についてお話ししましょう。地域に住む皆さんの暮らしの安定と向上を図るため、相互扶助を基本とした非営利団体で、主に医療や介護サービスを提供しています。199床の病院と診療所のほか、在宅介護関連の事業所を運営し、リハビリスタッフ40名を含め約500名の職員が働いています。

はちせいでは地域包括ケアを事業方針に掲げています。介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、住まいを基本とし、介護予防・生活支援・介護・医療などが切れ目なく提供できる仕組みです。「地域包括ケアシステム」の必要性が叫ばれる前から、ここではその要素をすべて持ち合せていました。

30年以上前に社医学で「QOL」を学びました。今では一般に支持されています。地域包括ケアもわかりで、この取り組みがいずれ標準になると考えています。QOLを追求していくと、地域包括ケアが必要になるからです。

社医学は学生のためだけでなく、卒業生が現場で悩むときの「拠り所」であり続けてほしいですね。愛着と誇りを持てる学校であると確信しています。



就職について

現場で働く卒業生の活躍とつながりから、希望就職率は毎年100%を保っています。サポート体制も整え、一人ひとりの新たな一歩、さらなる飛躍の実現を支えています。

卒業生の主な就職先(2017年度)

理学療法学科(昼間部・夜間部)

【東京】 いずみ記念病院、永生病院、青梅三慶病院、大泉生協病院、慶應義塾大学病院、介護老人保健施設小金井あんず苑、小金井太陽病院、国立病院機構 災害医療センター、小平中央リハビリテーション病院、JR東京総合病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、心身障害児総合医療療育センター、東京医科歯科大学医学部附属病院、日本大学病院、初台リハビリテーション病院、まつだ整形外科・リウマチ科、武蔵野赤十字病院

【埼玉県】 国立病院機構 西埼玉中央病院、新座志木中央総合病院、飯能整形外科病院、三井病院

【神奈川県】 麻生総合病院、たま日吉台病院、日本鋼管病院、裕香整形外科

【千葉県】 亀田総合病院、白石整形外科クリニック、総合医療センター成田病院、東葛病院 他

作業療法学科(夜間部)

【東京】 天本病院、浮間中央病院、LIC訪問看護リハビリステーション、青梅慶友病院、葛西昌医会病院、清瀬富士見病院、江東病院、国立病院機構 村山医療センター、三恵病院、信愛病院、総合東京病院、東京健生病院、どろんこ会、中野共立病院、介護老人保健施設ピースプラザ、東大和病院、浴風会病院

【埼玉県】 さいたま市総合療育センター、(株)シバソク

【神奈川県】 麻生リハビリ総合病院、国立病院機構 箱根病院、ハートフル川崎病院、秦野老人保健施設みかん 他

就職サポート

キャリア支援室

在校生や卒業生の就職活動・キャリアアップをサポートしています。専任スタッフが学年担任と連携しながら学生の希望や適性を踏まえた情報提供とアドバイスを実施。求人情報は、PCおよび閲覧用ファイルから収集することができます。



合同就職説明会

医療機関・施設などのリハビリおよび人事の担当者と直接話せる就職説明会を、理学療法学科・作業療法学科合同で実施しています。在校生にとっては待遇面や教育制度など、気になる求人情報を一度に聞けるチャンスです。





旅を楽しむ

副学院長 中村伴子

高度成長期の真只中、企業戦士の父が久しぶりに休みを取れ、物心つき初めて家族揃って箱根旧街道を二俣川から芦ノ湖までウォーキングしたことが旅好きのきっかけとなりました。

以来、自分の家族を持ち、共働きのため毎年夏休みを利用して年に一回は日本全国津々浦々を旅し、47都道府県を訪れました。家族が増え、娘達の結婚や孫が誕生しても家族旅行は続いています。日本誕生の奇跡が表れる地形や、各地の人々の暮らしぶりがわかる博物館、文学館などにも行ったり、近頃ではPT・OTの同窓会でそれぞれの故郷を巡り各地を訪れて時間を共有しながら楽しんでいます。

最近、訪れた小豆島(写真)では、他県からの移住者で人口の増加が見られると聞きました。伝統的な素麺作りやオリーブ栽培など町を挙げて行われ、



島の方々は自分の仕事が健康長寿に役に立つという誇りを持たれていました。お互いの仕事や人となりを尊重しあって生き生きと生活されていることに感銘を受けたひとときでした。

こんな活動
しています

教員



サーフィンとリハビリテーション

理学療法学科教員 小宮山一樹

私はサーフィンが大好きです。始めて20年以上が経ちましたが、飽きるどころか意欲は増すばかりです。その理由として、一つとして同じ波は存在し



ないということが挙げられます。その時の風や潮流、海底の砂のつき方など、様々な要因によって刻一刻と変化しながら波がつくり出されます。その波に合わせて対応する柔軟な身体と思考が必要とされ、そこが難しさであり面白さであると考えます。

そう考えると、リハビリテーションの仕事も同じであることに気がきます。同じ病気を患っている人でもその人の生活背景や性格、年齢、また、回復度合いや心理状態などにより、提供すべき理学療法、作業療法は変化します。その時々柔軟な思考による理学療法、作業療法の修正が必要とされ、そこにこの仕事の難しさと魅力が共存しているのです。

これからも充実した良い仕事をして、またサーフィンを楽しく続けるためにも、“身も心もやわらかく”をモットーに、日々精進していきます。

Wheelchair Rugby に関わって



理学療法学科教員 藤川明代

私は、障がい者スポーツである Wheelchair Rugby に関わっています。現在、クラブチームの「BLITZ」(東京)にてチームスタッフ(トレーナー)として、また日本代表チームにてトレーナーとして活動しています。

Wheelchair Rugby は頸髄損傷などの四肢麻痺者が車いすで競技するスポーツで、障がい者スポーツの中でも重度障害区分になっています。障がい者スポーツで唯一車いす同士のぶつかり合い(タックル)

が認められ、ラグ車と呼ばれる競技用車いす同士がぶつかる大きな音が響きわたります。相手を翻弄する巧みな車いす操作も魅力の一つであるスポーツです。

私はこの競技に関わることで頸髄損傷という疾患のイメージが変化しました。選手達により深く関わることで頸髄損傷への理解も高まりました。

日本代表は 2018 年の 8 月に初めて世界一になることができました。この勢いそのまま 2020 年東京パラリンピック競技大会に向け、万全な体制をサポートしていきたいと考えています。



特技

趣味

紹介

爽快！トレイルランニング



理学療法学科教員 山形哲行

学生時代は陸上競技部、社会人になって大学病院で働くようになってからは市民ランナーとして走り続けてきました。

そんな私とトレイルランニング(山岳レース)と

の出会い、たまたまエントリーしていたマラソン大会が中止になり、日程的に都合のよかったトレイルランニングのレースに出場したことがきっかけです。

山を走り自然と一体となる爽快感、山の上から見る景色、無事にゴールしたときの達成感は、これまで経験したことのないものでした。

すっかりトレイルランニングの世界に魅了された私は、社医学の教員として働きながら順天堂大学大学院でも6年ほど研究にのめり込み、一昨年修了しました。研究領域としては国内ではまだ確立されていない分野ですが、PTの知識や技術が役に立つ分野であると確信しています。

今後も山を駆け巡りながら、PTの可能性を探求していきたいと思っています。



サークル紹介

社医学の認定サークル8団体の
さまざまな活動をご紹介します!



futsal



フットサルサークル

- ◆活動日時 毎週水曜日と金曜日、16時30分～18時まで
- ◆活動場所 講堂または屋上
- ◆活動内容 5月社医学カップ（歓迎会）、8月バーベキュー、3月三送会（送別会）
- ◆こんなサークルです！
初心者から経験者まで、ワイワイ楽しく活動しています。

夜間部フットサルサークル

- ◆活動日時 毎週金曜日の夜間部授業後
- ◆活動場所 講堂
- ◆活動内容 ひたすらフットサルをしています。「ソサイチ」というフットサルの大会に出場することも！バーベキューしたり、各地に遊びに行ったりもしています！
- ◆こんなサークルです！ お仕事や学校で1週間疲れきった身体をリフレッシュするため、みんなで笑って楽しくをモットーに取り組んでいます。ぜひ足を運んでみてください。お待ちしております！

futsal



baseball



野球サークル

- ◆活動日時 毎週木曜日17時～19時
- ◆活動場所 上水公園（小金井市）
- ◆活動内容 サークル活動日には人数が集まったら試合をしています。1年に1回、他のリハビリの学校と試合をするリハビリテーションカップに出場しています。
- ◆こんなサークルです！
基本的には学業優先のため人数次第では活動しない日もありますが、学年年齢に関係なくみんなで楽しくやっています。2018年にはリハビリテーションカップに優勝しました。

バレーボールサークル

- ◆活動日時 毎週火曜日 16時30分～17時30分
- ◆活動場所 屋上 or 小金井体育館
- ◆活動内容 ゲーム形式でバレーしてます！人数が少ない時は2人で対人したり、円陣パスしたりします!!
- ◆こんなサークルです！ 人数の集まる日が少ないので、みんなでゆるく楽しくやっています!! おしゃべりしながら先輩後輩関係なく楽しくバレーしましょう！女性も男性も！もちろん昼間部だけでなく夜間部の方もどんどん顔出ししてください!!



basketball



バスケットボールサークル

- ◆活動日時 毎週月曜日 16時30分～18時
- ◆活動場所 屋上、小金井体育館（不定期）
- ◆活動内容 主に月曜日に屋上でのバスケ、不定期で体育館でのバスケを行っています。5月社医学カップ、12月忘年会、3月三送会
- ◆こんなサークルです！ 初心者、経験者共に参加していますので、誰でも楽しくバスケができます!!

社医学ストライカーズ

- ◆活動日時 火曜日の夜間部授業後
- ◆活動場所 講堂
- ◆活動内容 キックボクシングを中心とした立ち技格闘技をゆるく（時に激しく?）、丁寧に指導します。
- ◆こんなサークルです！ 年齢、性別、経験不問、悩みも不安も、汗と一緒に吹き飛ばそう!



strikers

hamonepu



ハモネプサークル

- ◆活動日時 毎週木曜日の夜間部授業後。学校のイベント（体育祭や文化祭、新入生歓迎会）での発表前は不定期に実施
- ◆活動場所 主に講堂もしくは義肢装具室
- ◆活動内容 パートごとに練習、合わせを行い、イベントステージで発表します。月一回（不定期）、みんなでカラオケに行きストレス発散もあり（笑）
- ◆こんなサークルです！ 初心者が多く、1からのスタートです。しかし、発表後の達成感は大きく、みんなの絆と団結する心は若い春が訪れるくらい、かけがえないものになるでしょう。うるさすぎて苦情が来る手前まで一緒に歌いませよ!!

陶芸サークル

- ◆活動日時 毎週火曜日 21時10分～22時 その他、陶芸をしたい時、昼、夕方の活動も可能です!
- ◆活動場所 作業療法室
- ◆活動内容 気の向くままに陶芸をしています。小さなブローチや、箸置き、食器など自由に創作しています。文化祭では作品の展示・販売を行っています。
- ◆こんなサークルです！ 一人でも誰かと一緒にでも、初心者も経験者もPT科もOT科も誰でも気軽に作品が作れます。参加費も無料! こんな風なもの、作れるかな...というのにもチャレンジしながら、ゆるく活動しています。

pottery



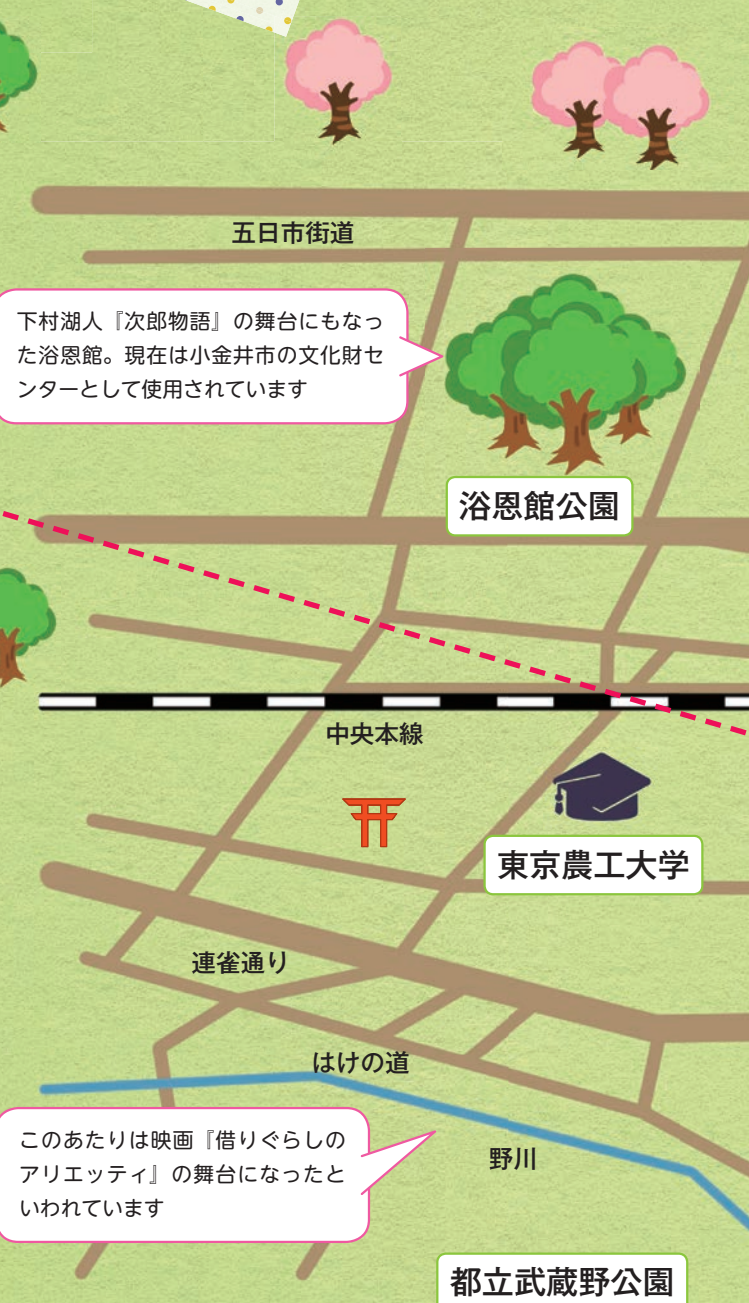
社医学周辺マップ

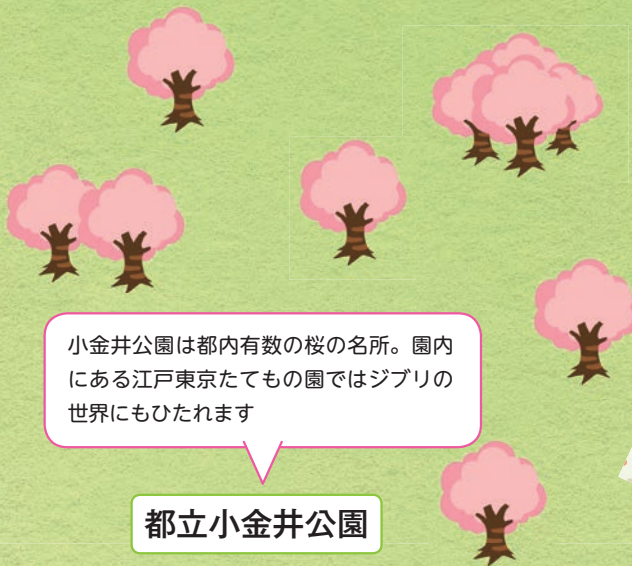
当学院のある小金井市は緑豊かな公園が多く、
文教都市としても知られています。
散歩がてら遊びに来ませんか！

マップ、イラスト作成／作業療法学科3年 福島昌造さん
写真提供／芳本圭市さん(小金井市在住)
撮影地：野川公園(①、②、③)
小金井公園(④、⑤)



専門学校 社会医学技術学院





小金井公園は都内有数の桜の名所。園内にある江戸東京たてもの園ではジブリの世界にもひたれます

都立小金井公園



小金井市イメージキャラクター
こきんちゃん



「こきんちゃん」は小金井市市制施行50周年を記念してスタジオジブリの宮崎駿監督が制作したキャラクターです



法政大学



梶野公園

スタジオジブリ



東小金井駅

東小金井の名物といえば油そば。当学院教職員も愛好家多し！

栗山公園

吉祥寺へは東小金井から電車で8分。おしゃれな雑貨屋やカフェ、美術館など、お出かけスポットがたくさんあります

新小金井駅

西武多摩川線



都立野川公園

豊かな水と緑に恵まれた野川公園。手ぶらで楽しめるBBCが人気です





shaigaku コミュニケーションロゴ誕生!

学校法人化を機にコミュニケーションロゴが誕生しました。「専門的知識や技術を学ぶエネルギー」と、人に寄り添う「思いやりのある人間性」を、笑顔のような文字で表現しています。

広報誌 「社医学ひろば」創刊号 2019年 No.1
発行 学校法人 日本リハビリテーション学舎
東京都小金井市中町2丁目22番32号
TEL 042-384-1030 (代) FAX 042-385-0118
発行人 宮武 剛
発行日 2019年4月